

瀬戸内市立瀬戸内市民病院だより

さんさん広場

第120号

《編集・発行》

瀬戸内市民病院広報委員会

瀬戸内市邑久町山田庄 845-1

TEL (0869) 22-1234

FAX (0869) 22-3296

URL <http://www.city.setouchi.lg.jp>



《理念》 市民に安らぎと幸せを届ける病院を目指します。



「兄弟ゴリラ 瀬戸内市に引っ越し」 田園風景の広がる長船町牛文（うしふみ）の農園に突如、学生のゴリラが出現。TV・新聞で話題となった奉還町から引っ越してきた兄弟ゴリラです。兄は高校生、弟は小学生で強烈なインパクト。「お子さんをはじめ多くの皆さんに見て喜んでいただきたい。」と農園主の小野田和義さん。取材中も車窓から見学するお子さんの驚きと喜びの入り混じった歓声が聞こえてきました。10月には夏服から学生服に衣替えし、皆さんのお越しをお待ちしています。（病院事業部長 小山洋一）

目次

- | | | | |
|----------------------------------|------|-------------------------|----|
| □ 写真「兄弟ゴリラ 瀬戸内市に引っ越し」 | …1 | □ 身近にあるアル法律相談 (4) | …6 |
| □ 2020 年度看護研究発表会を開催して | …2,3 | □ 患者満足度調査（アンケート）のご協力 | …6 |
| □ ちょっといい話“珠玉のひとこと” | …3 | □ 日々の糖尿病診療業務をサポート— | …7 |
| □ 一多職種連携を図りながら一病児保育室「さんさんキッズ」の現在 | …4 | □ 糖尿病療養指導士 3 名誕生 | |
| □ 病院機能評価受審準備に向けて | …4 | □ 一訪れる人に安らぎを— | …7 |
| □ 明日の健康シリーズ (1) 一尿失禁を予防しよう— | …5 | □ 職員紹介コーナー『庭』 | …8 |
| | | □ 漫筆「見たり・聞いたり・言ったり (5)」 | …8 |
| | | □ 編集委員のちょっと一服～オリーブの木の | …8 |
| | | 下で～ | |

2020年度看護研究発表会を開催して



忙しい業務の中、看護研究を行う意義は、研究的視点を養い、慣例的に行っている看護のエビデンスを明確に評価すること、看護の質の向上につなげることです。

当院では毎年各部署担当者を決めて看護研究に取り組んでいます。「さー、どんなテーマで研究を始めようか」ということになる。目の前の業務改善的なことが多くなるのが実情です。業務改善も研究的な視点をもつて行くと、結果の活用や看護の質の評価まで進める

ことができます。研究を行う上で、この「研究的な視点」を適切に指導できるか否かが重要になってきます。そこで、2020年度の看護研究は、香川県立保健大学教授 近藤真紀子先生に指導をいただくことにしました。看護研究には、①研究テーマを探す ②先行研究・文献を確認する ③研究計画書を作成する ④研究計画に沿ってデータを集める ⑤データを分析する ⑥研究の成果を発表するの6つのステップがあります。②については、医学中央雑誌Webを導入していただき、検索が容易になりました。④について

は初めての取り組みとなりましたが、6つのステップすべてを丁寧に指導していただき、順番に進めていくことができました。

近藤先生には、年5回来院していただき指導を受けるようにしていましたが、コロナ禍で来院による指導が難しくなり、急遽リモート指導に切り替えることになりました。当院にはリモート出来るパソコン

と回線の準備をしていただき、事務局 正岡主査（診療情報管理士）の協力のもと着々と準備が整えられました。8月開始当初はパソコンの機能が十分でなく、途中音声が届き切れ携帯電話を片手に指導を受けたこともありましたが、その後専用のパソコンを購入していただき、リモート指導は順調に進みました。しかし、コロナ禍で看護研究の開始が遅れたことと、各部署個別指導となり、担当者の勤務日と近藤先生の都合を調整し日程を決める必要があったため、時間がかかり、2020年度内のまとめが難しくなりました。

⑥研究の成果を発表するについては、看護研究発表会を当初6月9日（水）に開催し、近藤先生に来院していただき講評していただく予定でしたが、コロナの感染状況などから、8月11日（水）に延期することになりました。しかし、8月に入りコロナ感染者が増加したため、研究発表会を再度延期するか、紙上発表にするか等選択を迫られました。幸いに各部署8月の研究発表会に間に合うよう、原稿・パワーポイントの作

成ができていたので、研究者に発表の機会を作りたいと思い、予定日時にリモート研究発表会を開催することになりました。参加者は密を避けるため研究者と三河内事業管理者、竹内院長、各看護師長のみとしました。近藤先生にはパワーポイントをしながら発表を聞いていただきプレゼンテーションの評価も併せて講評をしていただきました。テーマの絞り込みから関わっていたので、それぞれの研究の過程がよく分かり、とても良い講評でした。また近藤先生には会場の様子は見えませんが、私達の声だけが聞こえる環境でしたが、三河内事業管理者の挨拶など会場の雰囲気伝わったようで、「いい病院だね」との感想をいただきました。

2020年度の看護研究発表会はコロナ禍での開催となり、リモート指導やリモート研究発表会など初めての経験にドキドキ・ハラハラしましたが、近藤先生や正岡主査、各部署の協力のもと無事開催できホッとしています。

各テーマは部署の身近な問題をとらえ研究的視点で分析されており、この研究結果が日々の業務に活かさ

れ看護の質の向上へつながることを期待します。

(看護局長 天野芳子)

各部署の研究者及び

テーマ(発表順) 各題発表時間10分

【東病棟 本城千鶴・川部 桃】

テーマ「ポジティブマネージメントを応用しグッジョブカードを用いた看護師間のコミュニケーションの向上を図る取り組み」

【外来 川島由紀・松原ミヨ子】

テーマ「地域密着型病院の外来における糖尿病看護チームが有機的に機能するためのシステムの構築」

【北病棟 中田安里紗・岩野麻衣子】

テーマ「褥瘡発生リスクの高い患者への個別性を重視したケアの実践とその効果」

【西病棟 實末実千代・細中千鶴子】

テーマ「カード・ホワイトボードを用いたFIMの見える化及び勉強会による看護師と補助者の日常生活活動の援助の統一」



外来



東病棟



西病棟



北病棟

ちょっといい話

“珠玉のひとこと”

十数年前、私はある民間病院に採用の挨拶にうかがいました。初対面の院長から「あなたはこの病院に何しに来られたんですか、経営も良くないし・・・」などと病院の良くない点を並べられました。その挙句「もつとよい病院に行けたのでは？」とも言われ、正直困惑していました。その場所には法人本部の幹部と病院の看護部長が同席していました。私は歓迎されていないのであれば潔く採用を辞退しようと考えていました。ほどなく院長は診察のため会議室から退出されました。そのとき、それまで無言だった看護部長が私に笑いかけながらこう言われたのです。「それでも私はこの病院が好きなんです。一緒にがんばりましょう」と。私は、自分の勤めている病院が好きだととらえなく述べられた看護部長の表情と言葉にある種の感動を覚えるとともに、病院全体を垣間見た思いがしました。「この病院でがんばる」と決意した瞬間です。退職するまでの6年間、やりがいを感じながら働かせていただきました。あのときの院長は初対面だったからこそ、あえて課題を突き付け私の決意なり覚悟を確かめられたものだと思います。「それでも私はこの病院が好きだ」。あのときの珠玉のひとつが、勤務する病院が変わった今でも私の働く心の原動力となっています。(B)

—多職種連携を図りながら—

病児保育室「さんさんキッズ」の現在

昨年12月に瀬戸内市民病院病児保育室「さんさんキッズ」が開設して半年以上が経ちました

生後6か月から小学6年生までのお子さまが利用対象で、市民病院 小児科外来で診察後、隣接する総合福祉センター内の病児保育室で受け入れを行っています。

『さんさんキッズ』の名前に相応しく、室内は日当たりがよくとても明るい環境です。室内を4室に分室しており、感染症と診断された場合は子ども同士が接触しないように



個室にて個別で対応しています。また、環境等も随時消毒をし、感染が起らないように気をつけています。

日常とは違う場所で過ごすので、初回は泣けてしまう子どもも多いですが、少しでも早く不安が取り除けるように保育士が個々の症状に配慮しながら月齢や興味に応じた環境設定や遊びの関わりを行っています。病児保育ですので一日を室内で過ごすこととなりますが、病児保育室の大きな窓からは市民病院の駐車場が見渡せ、遊びの合間に保育士と一緒にバスや車が行き交うのを眺めたり、手を振ったりと外の景色に触れることで気持ち晴れる子どもの姿も見られています。

療育中に熱が上がる等の症状の変化に対しては、すぐに対応できるように小児科医師、看護師との連絡体制を整えており、食事に関してはアレルギー食（7大アレルギー対応可）の提供もできます

ので安心してご利用できます。子どもたちが気持ちよく、安全に過ごせるように、今後も多職種連携を図りながら保育看護体制を高めていきたいと思えます。ご利用の際は瀬戸内市民病院に電話で予約してください。事前登録も随時受け付けています。

（病児保育室「さんさんキッズ」

（保育士） 山根良子

〈予約電話〉瀬戸内市民病院事務局
〇八六九（二二）一二三四



病院機能評価受審準備に向けて

当院は平成24年3月2日、初めて認定病院の仲間入りを果たし、同30年2月2日1回目更新、そして、令和4年1月、2回目の更新審査が予定されています。この諸準備のため、今回も病院内に組織横断的な組織「病院機能評価受審準備室」（室長…竹内龍三院長）を設置。前回に続いて職員の英知を集め、全体で汗をかき、病院独力での更新を果たしたいと考えています。

（病院機能評価受審準備室事務局長（経営企画室次長） 馬場洋二）



準備室事務局担当メンバー

明日の健康シリーズ（1）

尿失禁を予防しよう

正常な排尿機能は、

- ・無意識の状態で尿を膀胱に蓄尿し、尿意を感じたとき意識的に排尿できる
- ・膀胱内に一度に300～400mlの尿を貯め、尿を残すことなく排尿することができる

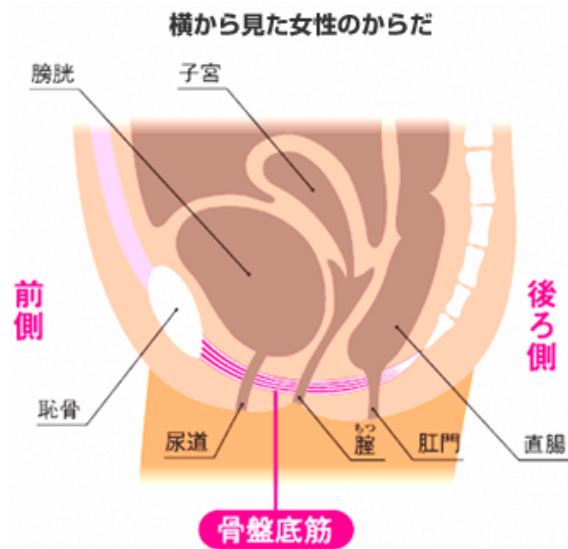
尿失禁とは、これらの機能が損なわれた状態（自分の意志とは関係なく尿がもれてしまう）のことをいう

予防方法

自宅で行える運動 骨盤底筋体操

Q 骨盤底筋とは？

A 骨盤の底でハンモックのように膀胱、子宮、直腸などが下がらないよう支えている筋肉群。
膀胱や尿道の位置を安定させる他、尿が簡単に漏れないように働いている。



骨盤底筋体操

※基本は、肛門や尿道を締める運動です（おしっこを我慢するような感覚で）。

- ①仰向けになって膝を立てて、足を肩幅に開く
1. 体の力を抜き
 2. ゆっくり締めて、そのまま5秒数える
 3. 力を抜いてリラックス
- ※1～3を10回繰り返す

- ②うつ伏せになって膝を立てて、足を肩幅に開く
- ※1～3を10回繰り返す

- ③ ④ 寝て行う体操に慣れてきたら様々な姿勢で行ってみましょう。

※この場合でも、1～3を10回繰り返す



リハビリテーション科（理学療法士）井町英子
（作業療法士）本原夢乃

身近にあるアル法律相談 (4)

隣家の庭に植えている樹木の枝が、私の家の敷地内に入ってきました。邪魔になるので境界線を越えた枝は隣家の許可なく切ってもよいでしょうか。

【問】

隣家の庭に植えている樹木の枝が、境界線を越えて私の家の敷地内に入ってきました。葉っぱが落ちるのみでなく、狭い敷地なのでこの枝が邪魔をして日々の移動にも支障が生じています。境界線を越えた枝は隣家の許可なく切ってもよいものなのでしょうか。仮に、隣家に伝えても応じてくれない場合は、どのように対応すればよいものなのでしょうか。

【回答】

隣地の樹木の枝が境界線を越えて敷地内に入ってきたケースについて、現行の民法では、「隣地の竹木の枝が境界線を越えるときは、その竹木の所有者に、その枝を切除させることができる。」(第233条第1項)という規定しか存在しません。

そのため、本件のケースでは、隣地の樹木の所有者に枝を切除するよう求めることしかできません。仮に境界線を越えた枝が邪魔をしており、日々の移動などに不都合が生じていたとしても、樹木の所有者に何も伝えることなく枝を切除した場合、樹木の所有権を侵害してしまつたことになり、違法となります。

また、隣地の樹木の所有者に枝の切除を求めたにもかかわらず、応じてくれない場合、現行の民法には特に規定が存在しないため、樹木の所有者に対して、枝を切除するよう求める民事訴訟を提起して、認容判決を得なければならぬことになります。

したがって、現行の民法のルールでは、枝を切除することに関して樹木の所有者から同意を得ることができなければ、枝を切除するためだけに、わざわざ民事訴訟を提起して、判決を獲得しなければなりません。しかし、この手続きはあまりにも

時間と労力を要するので、現実的とはいえません。

そのため、このような不合理な手続きを避け、隣地の管理を円滑に行うことができるようにするという趣旨から、近いうちに、隣地の枝の切除に関するルールの改正が予定されています(2023年4月頃の予定です)。具体的には、「竹木の所有者に枝を切除するよう催告したにもかかわらず、竹木の所有者が相当の期間内に切除しないときは、土地の所有者はその枝を切り取ることができる。」という規定が新設される予定です。

この規定があれば、隣地の樹木の所有者に、一定の日数の猶予を与えて枝の切除を求めたが、一定の日数が経過しても切除してくれなかった場合、土地の所有者が自ら枝を切除することができるようになります。また、自ら枝を切除したことについて、樹木の所有者から責任を問われることもなくなります。

(森脇法律事務所)

弁護士 竹内 雄紀

患者満足度調査(アンケート)のご協力に御礼申し上げます

病院運営のレベルアップを目的とし、業務改善等の参考とすべく、入院患者さま及び外来患者さまを対象とした満足度調査(アンケート)は予定通り8月末をもって終了しました。皆様のご協力に厚く御礼を申し上げます。今年度も新型コロナウイルス感染症対策の観点から、①設問数の見直し、②密回避のため説明者を配置せず、③フォルダーなど共用物品の消毒を徹底しつつ実施しました。なお、アンケート結果については、ホームページ、本紙、小冊子の掲示により公表の予定です。

(接遇委員会)



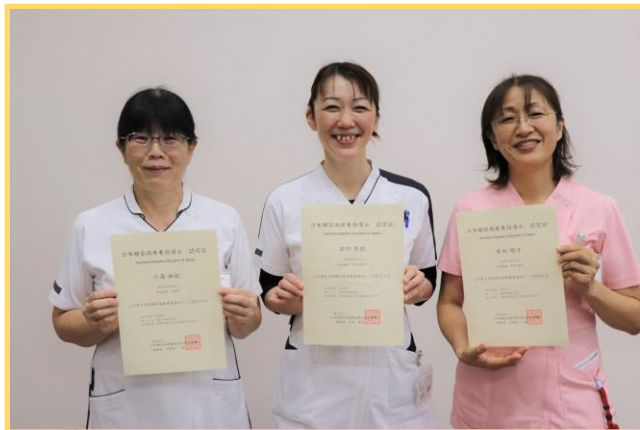
一日々の糖尿病診療業務をサポート—

糖尿病療養指導士3名誕生

糖尿病療養指導士（CDE: Certified Diabetes Educator）とは、糖尿病治療にもっとも大切な自己管理（療養）を患者に指導する医療スタッフのことです。2001年から日本糖尿病療養指導認定機構が認定している資格です。この認定資格は、高度で且つ幅の広い専門知識を持ち、患者の糖尿病セルフケアを支援する一定の経験を有し、試験に合格した看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士に与えられます。

当院では2017年4月から医師・看護師など多職種で構成した糖尿病委員会を発足。糖尿病患者の増加に伴い療養指導のできるスタッフの育成にも取り組んでいるところであります。

一昨年度1名、今年度2名の合格で、現在3名



のスタッフがCDEの資格を取得し、糖尿病看護認定看護師を中心として活動しています。糖尿病の合併症の予防や病気の症状を抑えるためには正しい知識と日々の治療が不可欠です。CDEの益々の活躍が期待されます。

（糖尿病委員会委員長
（内科医長）加原健治）

（当院の糖尿病療養指導士（CDE））

写真右から

- 管理栄養士（栄養科長） 若松規子
- 臨床検査技師 田村美紀
- 看護師（外来） 川島由紀

—訪れる人に安らぎを—

この新病院がオープンし5年が経とうとしています。当院ではその時から、外来総合受付のカウンターに、週に一度、職員が自宅に咲いた季節の花や木の枝を持ち寄り、備前焼やガラスの花瓶に活けて、訪れる人々に一服の安らぎや癒しを感じていただいています。

持ち寄っている職員によれば、「小さい庭にも大きな場所にも等しく季節はやってきます。庭にある花で皆様に季節を感じていただければ嬉しい。」とのことでした。春には

桃や桜・スイセン、矢車草や麦穂。梅雨時にはあじさい。秋にはすすきや栗。お正月には葉牡丹や南天・蠟梅。冬には椿・バラ・千日紅など。そして取材した盛夏の8月12日（木）には、百日紅（さるすべり）と葉蘭（はらん）が備前焼の花器に、聞くのも見るのも珍しい「キツネノカミソ



リ」という可憐な花がガラスの花器に活けてありました（写真）。また、これまでも多くの方から花の名前を聞かれるので、「花」の前に名前や由来を書いて紹介しているとのことでした。病院では緑膿菌など感染症予防の観点から花を飾られないところもあるやに聞きますが、当院では花器の水は毎日交換し、衛生管理に十分努めつつ、健診センター待合室の一角と併せ2か所に生花を配置しています。訪れる方々に安らぎを感じていただければ幸いです。

（広報委員会）

職員紹介『庭』



こんにちは、薬剤科の小林恭子です。昨年末に入職し、もうすぐ1年になります。病院での勤務は初めてで、まだまだ分からないことばかりですが、先輩方に助けていただきながら仕事に取り組んでいます。大変な時もありますが、退院される際の患者様やご家族の笑顔が何より嬉しく、励みとなっています。

休日はショッピングや友達と出かけることが好きでしたが、新型コロナウイルスの影響で難しくなり、最近は自宅で筋トレをするようになりました。身体を動かすことが減ったため、体力作りの一環として半ば渋々始めたのですが、思いの外楽しく、今や夢中になっています。コロナが落ち着いたらジムにも通おうかな…などと考えています。

★★ 次号の「庭」★★

クラーク（医師事務作業補助者）の菅崎真依子さんです。ご期待ください。

漫筆「見たり・聞いたり・言ったり」(5)

現在、NHKで放映中の朝の連続テレビ小説「おかえりモネ」をご覧になっておられる読者の方も多

いと思われま。気仙沼の島育ちの主人公 モネこと永浦百音（ももね）（清原果耶）が、東日本大震災

を経験した家族やその仲間たちとの関わりの中で、人の役に立てる気象予報士を目指すというドラマで

す。ドラマの中で主人公の祖父 龍己（藤竜也）と旧知の間柄で、いつときモネを預かっていた登米（とめ）の山主で資産家の新田サヤカ（夏木マリ）との電話の会話が印象

に残りました。おそらく二人とも70歳代半ばの年齢と思われます。牡蠣養殖業の龍己が「若い者が色々苦労

している。この中には50くらいの若くもない連中もいるけどさ、なんだか何にもしてやれねえな、と思つてさ」と言うと、サヤカが次のように

返した。「私たちがやれることなんて、あと一つくらいですよ。最後までかつこよく生きてやりましょうよ。叶わねえなと思われるくらい。そうしたら子供たちも生きること

楽しくなるでしょ。」この粹なセリフを聞いて、納得させられると同時に自分が次代を担う人たちにどのように映っているのか、を考えさせられました。

そういえば昔、机を並べて一緒に仕事をしていたご婦人が、ときどき当院にお見えになりました。今はご自身で歩くこともままならない大先輩の彼女は、物事にに対し毅然と、それでいて優しさと温もりを感じさせる方でした。それだけに周囲の信頼も厚かったことを覚えています。

病院で私を見つければ殊の外喜んでくださり、龍己の年齢に近くなった私に、必ず「がんばつてよ」と手を握って励ましてくれます。私も、若い人に対してできることは少なくなってきたと思います。「かつこよく生きる」とは何かを模索しつつ、このご婦人のようにかつこよく生きていきたいと思ひます。

（経営企画室次長 馬場洋一）

編集委員の

ちよっと一服



～オリーブの木の下で～

通勤で使用しているトートバッグ。そういえば長く使っているな、いつ買ったものかなと思い返してみると社会人3年目に買ったものでした。今年で20年、ずいぶん長い付き合いになります。毎日使っている財布、こちらは16年使用しています。どちらも他人が見ればボロボロと思われそうですが、私自身はまだ使うつもりです。あまり意識したことは無いですが、意外と物持ちが良いタイプなのかもしれません。人生も折り返しを過ぎました。これまで以上に長く使えるモノとの出会いを大切にしたいと思うこの頃です。(W)